

【気仙沼市立病院からのお知らせとお願い】

1. “面会禁止”の継続について

現在全国的な新型コロナウイルス感染の流行が拡大しており、宮城県においても発症者が増加しております。院内感染対策のため、これまで行っていた面会禁止を継続させていただきますので、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

❖面会ができる方は、原則、主治医の許可のあるご家族の方のみです。

- *面会の許可となった方は必ずマスクを着用し、病棟階エレベータ入り口で「面会申請書(検温と健康チェック)」をご記入の上、インターホンを押して面会の旨をお伝えください。
- *入室時、退室時には部屋の前に設置してありますアルコール製剤で手指消毒を行って頂きますようお願いいたします。
- *15歳以下のお子様は面会を禁止します。
- *荷物の受け渡しは、病棟エレベーターホールで対応させていただきます。



❖ケアマネジャー、施設関係者の面会対応について

- *実調、退院支援カンファレンス参加、リハビリ見学等、入退院支援関係者の入棟・面会は、総合患者支援センターに事前にご連絡をお願いいたします。
- *当日は総合患者支援センター窓口で「面会申請書」の記入を行って頂き、健康状態を確認の上、入棟(面会)となります。
- *患者さんの関係書類等は、当面の間、総合受付でお預かりいたします。



2. 外来診療予約のご協力について

- *「診療予約申込書」が、令和2年9月に更新されました。
当院ホームページ『総合患者支援センター』からダウンロード可能ですので、ご確認をお願いいたします。
- *個人様からの直接のご予約はお受け出来ません。
- *医療機関様から「患者 情報提供書」及び検査データ(必要時)を添えて、総合患者支援センターまでFAXでお申し込みをお願いします。
〈予約受付時間〉月～金曜日 8:30～17:00(土日・祝日・年末年始を除く)
尚、翌日分の予約については、前日の16:30までですのでご注意ください。

3. インフルエンザ予防接種について

- *10月1日から受付開始します。
当院でのインフルエンザ予防接種は、今年度も現在治療中の再来患者を対象に実施します。
予防接種のみの受診は出来ませんのでご理解・ご協力をお願いします。
- *詳しくは、10月1日発行の気仙沼市の広報をご覧ください。

気仙沼市立病院

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢8-2
(代表) TEL: 0226-22-7100
FAX: 0226-22-3121
総合患者支援センター
(直通) TEL: 0226-22-7178 (前方支援)
0226-22-8661 (後方支援)
FAX: 0226-24-2328



総合患者支援センターだより

第32号

つなぐ

2020年9月 発行
気仙沼市立病院



秋風が心地よい時節となりました。皆様には日頃よりご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。気仙沼市立病院では、地域の医療・介護・福祉関係機関との更なる連携の推進と、入退院支援体制および患者相談機能の充実を図ることを目的に、令和2年4月1日に地域医療連携室と医療相談室が統合し「総合患者支援センター」を開設いたしました。事務員1名、社会福祉士1名が加わり、退院調整では看護師4名、社会福祉士3名の7名体制でスタートしております。これから地域の医療機関や介護施設、ケアマネジャー等の皆様方に協力をいただきながら、患者様やご家族の想いに寄り添った支援を実践して参ります。

新型コロナウイルス感染防止対策でご不便をおかけしておりますが、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い致します。



今年度4月から、「総合患者支援センター」に名称を変更し、各病棟に退院支援職員が専任体制となりました。

入院患者様に関するお問い合わせは、病棟スタッフと共に専任者が担当させていただきます。

尚、患者様が転棟された場合は、担当者が変わることとなりますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

〈センター長〉 星 達也 副院長

〈後方支援・退院調整部門〉

専従者：畠山 代志子副看護師長

病棟専任者：

3西病棟(小児科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科)：Ns亀卦川 葉

4東病棟(外科)：Ns亀卦川 葉

4西病棟(脳外科・呼吸器内科)：MSW熊谷 勝市

5東病棟(循環器内科・内科)：Ns伊藤 芳美

5西病棟(内科・消化器内科)：MSW三浦 瑞貴

6東病棟(整形外科・泌尿器科)：MSW千葉 祥子

6西病棟(回復期リハ)：Ns三浦 葉子、MSW岩渕 巧

〈医療相談部門〉

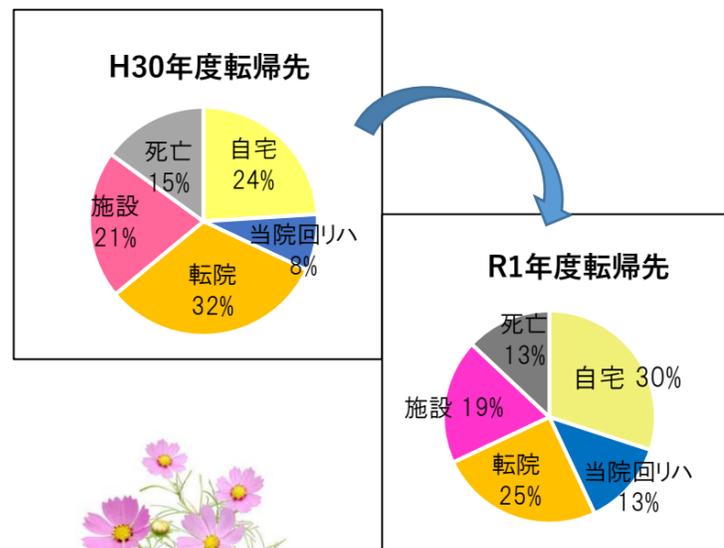
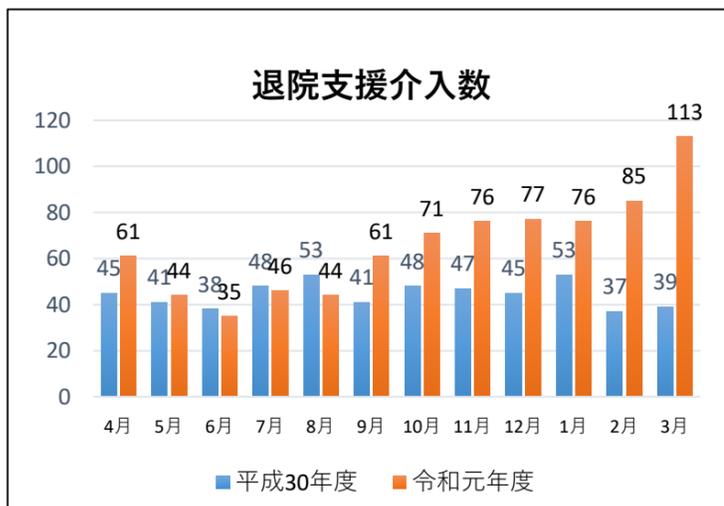
MSW戸羽 敦子、MSW岩渕 巧

〈前方支援・紹介受入部門〉

事務：小野寺なが子、菅野 順子 看護助手：斎藤 登志子



1. 入退院支援報告



介入件数を比較すると、平成30年度は年間535件/月平均45件、令和元年度は年間789件/月平均66件と増加しています。

昨年9月から「入退院支援加算1」体制の試行を開始して、今年8月から本稼働となり、要支援者様の早期抽出と介入が可能となりました。退院支援部門スタッフの増員や、退院支援運営委員会・リンクナース会の発足、運用ツールの開発、カンファレンスの充実、研修会等を開催して、より良い体制作りに取り組んでおります。今後の支援拡大に向けては、外来・病棟、多職種との更なる連携強化が課題です。

転帰先については、自宅退院と当院回復期リハビリ病棟への転棟を合わせると、前年度より11%増加しています。経済的な問題等で施設入所が困難な方や、酸素・点滴やドレーン管理、ターミナル期など医療的処置・管理が必要な方が介護サービス等を利用して自宅へ退院するケースが増えていきます。ケアマネとの連携がより深くなってきていることを実感しております。

今年度4月から当院回復期リハビリテーション病棟定床数が36床に増え、他院回復期リハ病棟への転院が減少し、院内転棟で早期リハビリ治療が可能となりADL回復率も向上しています。社会資源の状況としては、居宅介護支援事業所・在宅サービス事業所がわずかですが増加が見られます。

現在、新型コロナ対策で面会制限が余儀なくされる中、可能な限り入院早期よりご家族の不安や自宅退院困難要因を伺い、院内外の多職種と情報共有を図りながら、随時リハビリ見学等を設定するなど、在宅での療養イメージを持っていただけるような関わりを行っております。

2. 医療相談

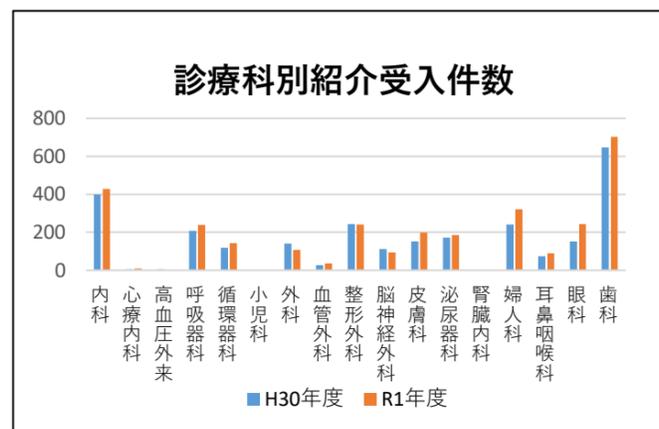
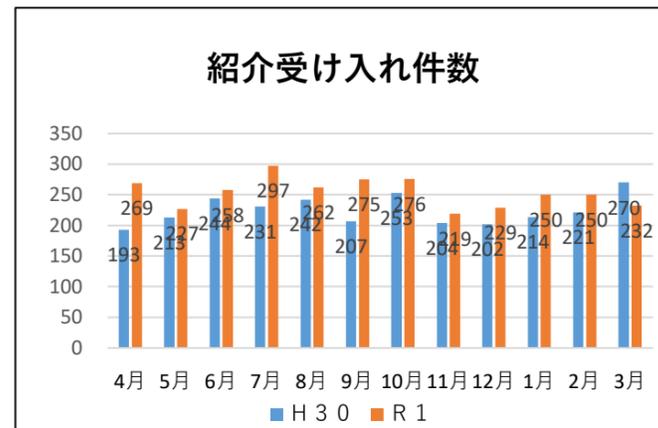
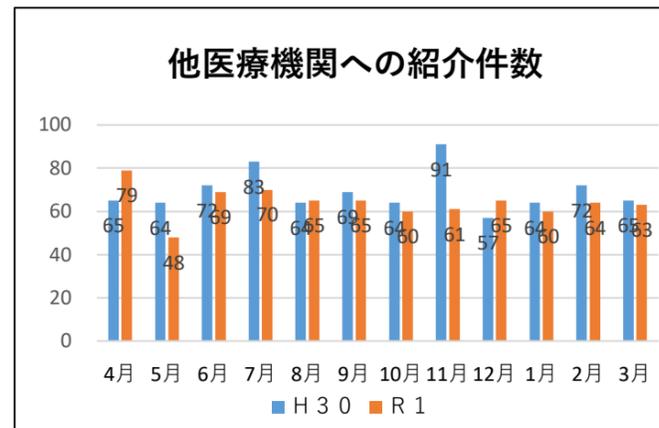
入院中の患者様への退院支援の他に、外来・入院中の患者・ご家族からの医療費の相談や介護・福祉サービスの利用について、難病医療費助成や障害者手帳、各種制度の活用、癌患者の療養生活についてなど、様々な相談に応じています。

昨年度は、社会保障制度に関する相談が241件あり、治療に伴う医療費の負担や療養中のお悩みなど、経済的な課題を含めた相談が多く寄せられました。

社会保障制度の活用については、在宅サービスについての相談が退院支援を除いた中で一番多い傾向があります。制度の手続きや情報提供だけでなく、地域の医療機関や施設・関係機関の方々との連携が不可欠となっております。

今後とも、関係機関の皆様と共に、患者様が安心して必要な医療を受けられ、地域での生活を送ることが出来ますよう支援して参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3. 前方支援報告



他医療機関への紹介は、平成30年度は年間848件/月平均70件、令和元年度は年間769件/月平均64件でした。紹介受け入れは、平成30年度は年間2,694件/月平均224件、令和元年度は年間3,044件/月平均254件と増加しています。

令和1年度の診療科別紹介受入割合は、概ね歯科23%、内科14%、呼吸器科・整形外科・眼科が8%、循環器科5%でした。

今年4月から、紹介状を持参しない新規受診患者様について「選定療養費」の算定を開始しましたが、センター経由の予約数に変化はあまり見られません。

◎がんサロンからのお知らせ

「乳癌婦人科癌患者会 hinami(ひなみ)」は、ただ今お休みしています。
『hinami(ひなみ)』は、婦人科系がん・乳がんの患者様及び家族様が集い、悩み事や心配事等を気軽にお話出来る場として開設しました。
現在、新型コロナウイルスの感染防止のため、お休みしています。
再開の際は、ご案内いたします。ご理解の程よろしくお願いいたします。

◎ストーマ外来より

毎週月曜日 外科の診療室で開設しています。
ストーマ造設患者様の皮膚トラブルや装具の選択・交換方法、社会資源の活用等について、WOC(皮膚排泄ケア)認定看護師がご相談に応じます。

受診手続き：完全予約制です。

- ・当院で造設された方：外科外来にお電話頂くか、受診時に申し出ください。
- ・他病院で造設された方：主治医にご相談後、総合患者支援センターを通じてご予約ください。主治医の紹介状がない場合やストーマ外来が初めての場合は、外科もしくは泌尿器科の受診が必要になります。

